

第三者評価結果（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 福祉総合評価機構

②評価調査者研修修了番号

SK2021273
S2020180
S2020181

③施設名等

名称：	奥浦慈恵院
施設長氏名：	入口 里子
定員：	35 名
所在地(都道府県)：	長崎県
所在地(市町村以下)：	五島市平蔵町2 4 4 2 番地 1
T E L：	0959-73-0055
U R L：	https://www.okuurajikeiin.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	1880年10月17日
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 奥浦慈恵院
職員数 常勤職員：	22 名
職員数 非常勤職員：	3 名
有資格職員の名称（ア）	社会福祉士
上記有資格職員の人数：	3 名
有資格職員の名称（イ）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	4 名
有資格職員の名称（ウ）	臨床心理士
上記有資格職員の人数：	1 名
有資格職員の名称（エ）	保育士
上記有資格職員の人数：	9 名
有資格職員の名称（オ）	栄養士・調理師
上記有資格職員の人数：	2 名
有資格職員の名称（カ）	看護師
上記有資格職員の人数：	1 名
施設設備の概要（ア）居室数：	4ユニット 24部屋
施設設備の概要（イ）設備等：	通所児童室1、心理治療室2、パソコン室（静養室）1
施設設備の概要（ウ）：	地域交流室（ホール）1、親子訓練室1
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

<p>【理念】 「自分を愛するように隣人を愛しなさい」とのカトリックの愛の精神に基づき、聖母マリアに倣い、社会の必要性に応え、人々にキリストの愛をもたらすよう努めます。児童養護施設においては、児童福祉法の理念に則り、家庭において適切な養育を受けることができない児童を家庭に替わって養育する。その実践にあたっては、カトリックの愛と奉仕の精神をもって育み、児童の必要に応えるよう努める。</p>

⑤施設の特徴的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・ 第三者評価及び自己評価に毎年度取り組み、課題を見直し改善に向けて検討している。 ・ 院内外の研修へ参加し、職員の質の向上に取り組んでいる。 ・ 必要なマニュアルや委員会を設置し、支援の向上に努めている ・ 自立支援担当職員を配置し、退所後も継続的な状況把握や相談支援に努めている。 ・ 市町との相談支援体制を強化し、情報共有の取り組みを行っている。
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2022/6/16
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2023/3/25
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成30年度（和暦）

⑦総評

◇特に評価が高い点

■ 子どもが安心して社会的自立を思い描けるリービングケア・アフターケア

本施設では、子どもの社会的自立を目指した自立支援計画を作成している。目標は子どもと共に考え、将来自分がどう生きていくか、そのためのすべとして何が必要かを担当職員と共に話し合っている。

また、高校生を対象にした卒院生との対話の時間を設け、卒院後の生活面等リアルな体験談を聞く機会を設けている。更に、専任の自立支援担当職員が家庭訪問や電話・SNSの活用など連絡を密にする体制を取り、退所後であっても生活相談、トラブルなどで支援が必要な時には相談を受けている。

自立生活に必要な支援金・給付金についての情報も適宜提供しており、退所後の子どもの不安に寄り添い、支援していることは特筆すべき点である。

■ 心身ともに健康な子どもを育てる支援

子どもが精神的に健康に育つためには生活リズムを整えることが重要であり、その一つとして「朝食を取る」ことを重視している。職員から促されて食べるのではなく、自ら「朝ご飯を食べたい」と思わせる献立や提供方法の工夫事例が確認できる。

朝ご飯を食べるためには、必ず決まった時間に起床することであり、子ども自身が主体的に生活習慣の改善に取り組むことに繋がっている。

本施設は朝食を通して、子どもの生活リズムと意欲を育てており、子どもが社会人として巣立つ時の要となると考えられる。食を楽しみながら身体的かつ精神面の健康を育む取り組みは高く評価できる。

■ 地域の福祉ニーズに合わせた公益的な事業

本施設は、これまでも地域のまちづくり協議会への参加や学校へ職員の派遣など、五島市との連携を重要と考えており、地域の福祉ニーズ等に基づいた活動を行っている。現在も施設長がリーダーとなり、ボランティア有志も参加し、公民館でこども食堂を開き地域の福祉ニーズに応えていることが見てとれる。

また、五島市こどもの居場所づくり・生活困窮等支援事業に参画し、生計困難者支援の一環として複数の家庭に「子育てが孤独にならないように」と、月に2度、家庭支援専門相談員がこども食堂の配食サービスを持参して家庭訪問を行っている。また、市社会福祉協議会としたレスキュー事業にも参画し、高齢者が生活が維持できるよう支援しており、心を込めた公益的活動は特筆すべき点である。

◇改善が求められる点

■ 階層別職員の育成

施設では、勤務歴が10年経過した職員を基幹的職員とし、中堅職員や若手職員の育成に取り組んでいる。施設長は、若手職員が発言できる人材に育ててほしいと考えており、研修委員会にて、新人職員には1年間指導員を付け、毎月1回の相談会を行っている。また、若手職員同士で自由に発言できる機会を設けている。

現在、外部研修を取り入れ、他の児童養護施設職員とオンライン研修で交流できる機会を作り始めたところである。この取り組みが、中堅職員や若手職員育成の一助となり、職員の定着と自らの気づき、改善、成長のPDCAサイクルに繋がることを期待したい。

■ ライフワークストーリー作成への取り組み

施設では、子ども一人ひとりのアルバムを作成しているものの業務に忙殺される中で、子どもの生い立ちからの記録を収集できないのが現状である。現在、子どもの状態を把握するために児童相談所や施設内心理担当職員等と連携することから始めている。

施設長は、ライフワークストーリー作成のための院内研修やケース会議での検討等、まだ不十分であると考えている。ライフワークストーリーは「生い立ち整理」ともいわれ、子どもが未来に向かって一歩を踏み出すことを支える支援でもある。今後の取り組みに期待したい。

■ 事業継続計画（BCP）の作成と周知

施設では、コロナ対応マニュアル、緊急対応マニュアル、災害マニュアルなど、有事発生時の対処方法についてマニュアルを整備している。ただし、社会福祉施設等においては、災害や感染症などにあっても、最低限の支援を維持していくことが求められている。そのため、災害等で被災時であっても事業が継続できるよう、事業継続計画（BCP）を作成するとともに、職員に周知を図り、理解を促すことが求められる。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

自己評価よりも高く評価していただいておりますが、そのことに満足することなく、子どもたちの声にしっかりと向き合い、応えていきたいと思っております。

今後は更に、「地域で育つということ」にも着目して、力になっていければと思います。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	第三者 評価結果
① 1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。 <input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。 <input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	a ○ ○ ○ ○ ○ ○
【コメント】 理念「自分を愛するように隣人を愛しなさい」は、カトリック本来の教えであるさまざまな子ども、職員が共に歩んでいこうという観点で現場に深く浸透している。 施設のホームページには、理念・基本方針等を明文化するとともに施設の活動等写真を掲載しており、施設の子どもの姿勢や地域との関わり方をわかりやすく表し、保護者等への周知が図られている。 施設長は、パンフレットだけでは現状の奥浦慈恵院の特性が伝わりづらい点があると感じ、施設の子どもたちに、創立の歴史や成り立ち、大切にしていること「いのち」をテーマにパワーポイントで資料を作成し、説明している。また、創立記念日には絵本を使用して子どもたちに創設者マルマン神父の人となりを紹介しており、理念の理解を促す姿勢は高く評価できる。	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。 <input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設（法人）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。 <input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	b ○ ○ ○ ○
【コメント】 施設長は、社会福祉事業全体の動向を把握しており、将来性を見通した養育と支援に取り組んでいる。現在、施設では子ども数の減少や少子化の影響を受け、小中学校の統合など地域の状況を鑑み、大舎制から小規模化へ施設内の形態改革の過渡期にある。 コロナ禍の影響で思うようには行えずにいるものの、コロナ収束状況をみながら、職員を対象とした他施設の訪問、見学、研修を実施し、学びの場となるように考えている。 小規模ホームの新設については、組織体制と共に地域理解の必要性など課題を把握している。今後も安定した運営に向けて、継続的に社会動向の把握・分析に取り組むことに期待したい。	

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

施設長は、施設の運営状況を理事会や評議会にて現状を報告しており、役員と情報共有を行い、課題について解決・改善策を具体的に話し合っている。また、理事会の内容を職員会議やミーティングで職員と情報を共有している。財務諸表等は母体法人のホームページにて閲覧可能となっている他、施設の事業計画には、リビングケア、アフターケアを強化する職員配置などを明記し、改革に向けて進められていることが確認できる。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		第三者 評価結果
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○

【コメント】

施設では、中・長期計画を作成しており、大舎制から小規模化への移行を将来的に進めるよう明記している。設立以来大舎制であったため、小規模ホームを新設した際の職員配置について中堅職員、若手職員をどのように配置し、運営を進めていくか、施設長は大きな課題と捉えている。

今後、地域の中に設置すべき小規模ホームの推進には、まずは職員の理解が不可欠であり、中・長期計画の全体像を把握し、積極的に発言できる職員の育成に努めている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

単年度の事業計画は中・長期計画となる家庭的養護推進計画に記している大舎制から小規模化への移行を前提に、小規模ホーム運営の研修、新設場所の選定、地域住民の理解を得るための説明などを明記している。

コロナ禍の影響で計画通りに行えない状況が続いているものの、次第にコロナの鎮静化に伴い、状況を注意深く見ながら、目標に掲げている外部研修や地域交流等の日常的な活動が復調しつつある。今後の取組みに期待したい。

(2) 事業計画が適切に策定されている。		第三者 評価結果
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等が)されており、理解を促すための取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

単年度の事業計画は、毎年度決まった時期に職員の意見をまとめて作成し、理事会に提出しており、手順に沿っていることがわかる。また、施設長は職員に事業計画を説明する機会を持ち、理解を促すよう努めている。事業計画は中・長期計画である家庭的養護推進計画に沿って、少人数の家庭的規模を保持することや家庭再統合を目指すことを明記していることが確認できる。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設では、子どもの生活に関わる情報は各ホームの掲示板に張り出し、児童会にて年間の事業計画を伝えている。連絡可能な保護者には電話で連絡するとともに、ホームや玄関入り口の掲示板に掲示している。連絡可能な保護者には、施設の状況や行事案内の他に学校行事についてお知らせを郵送している。電話に加えSNSを活用することで写真や動画を配信することが可能となっており、保護者が理解しやすい工夫を行っている。事業計画を子どもや保護者に周知を図る取組は高く評価できる。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設は定められた基準に基づき第三者評価を受審し、評価結果をもとに施設の質の向上に取り組んでいる。また、毎年実施している施設の自己評価については、今年度は設問内容を見直している。設問は基本方針を基に自分たちの強み、弱みに加え、精神面ではリラクゼーションの項目など策定し、職員全員で取り組んでいる。今回、自己評価を行ったことにより、職員への理念の浸透に繋がっており、一人ひとりが施設の良さを再確認し、今後の養育・支援に関する計画に反映している。施設の質の向上に向けた実施プロセスにおける組織的な取組みは高く評価すべき点である。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員アンケートと称する職員自己評価の結果をまとめ、職員間で情報共有している。今回の設問で「自然への関心を持ち大切にできる」という項目から、まずは子どもたちが五島のことを知ることを目標に掲げ、行事等計画に反映している。

改善課題は職員参画のもと課題を明確にし、解決改善に向けて取り組んでいることは特長である。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設長および職員の職務内容を明記した職務分担表とともに組織図もあり、それぞれの役割、責任を明確にしている。

運営管理や苦情解決責任者など施設長の役割と責任を明示している他、施設長不在時の権限委譲体制を明確にし、職員への周知を図っている。

自立支援担当職員が中心となり、主任及び各棟リーダーとサポートが対応できるよう、チーム体制を確立している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設長は、遵守すべき法令等を十分に把握しており、利害関係者とも適正な関係を保持している。遵守すべき法令などは、全国児童養護施設協議会や県社会福祉協議会、要保護児童対策地域協議会など各分野から最新情報文書にて把握している。労務については委託している社会保険労務士から最新情報や対応についてのアドバイスを受けている。

施設では、環境保全に取り組んでおり、ブルーカーボンへの寄付や五島市が開催する自給自足の研修や行事に参加している。これらの情報は、職員会議やミーティングなどで職員と情報共有し、施設として取り組んでおり、SDGsについては、各ホームで勉強会を行い、子どもたちが研究結果を発表するなど、積極的に取り組んでおり、優れた点である。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。		第三者 評価結果
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	□施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	□施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	□施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	□施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	□施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
(社会的養護共通)		
	□施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○
【コメント】		
<p>施設長は、職員会議やミーティングに参加し、施設の養育・支援の質の向上に意欲をもって取り組んでいる。自己評価や昨年度までの成果から、職員主体の施設運営を目指している。職員が作成した自立支援計画に赤字で加筆し、アドバイスをを行っている。</p> <p>前年度の反省を踏まえ、今年度は施設内委員会組織を立ち上げており、各委員会を効果的に運営するために、年度末に成果をプレゼンテーションする仕組みを構築している。</p> <p>現在、施設では記録は手書きが中心となっているため、施設長は今後、パソコンを活用した記録を検討中であり、更に共有するシステムを構築することも予定しており、効率的に業務を進めていくために改善策を積極的に推進している。</p> <p>施設長が子どもの養育・支援の質の向上に積極的に取り組み、指導力を発揮していることは特筆すべき点である。</p>		
②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	□施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
【コメント】		
<p>施設長は、経営改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務などの分析を行っている。</p> <p>主任の配属や各棟リーダー職など職員体制を見直しながら、働きやすい環境整備を行っている。また、税理士事務所や社会保険労務士事務所と契約しており、適時アドバイスを受け、業務改善に取り組んでいる。</p> <p>今年度は、各種委員会組織も確立し、安定且つ良質な養育支援の実施に向けて進めておいることは、優れた点である。</p>		

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	<p>14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(社会的養護共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
<p>施設の研修プログラム内に職員の育成計画を織り込んでいる。</p> <p>施設長は、職務上必要な資格取得を職員に積極的に推奨しており、本人の希望で社会福祉士の受験資格を得ている職員がいる他、勤務年数10年以上の職員に受講資格がある県の基幹的職員研修を受講し修了証書を得ている。</p> <p>施設では、本年度までに加算措置を用いて、自立支援専門員や家庭支援専門相談員、臨床心理士などの専門職を配置しており、新人職員には、1年間指導員が付いて、毎月1回の相談会を行っている。</p> <p>更に、スターズ研修を取り入れ、新人職員の育成を行っており、育成体制の確立が期待できる。</p> <p>必要な人材確保と育成に向けた施設のさまざまな取組は高く評価できる。</p>		
②	<p>15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【コメント】		
<p>施設の運営理念に基づく“職員の心得”に、施設職員としての心構えや法人としての“職員の心構え10か条”を明記し、期待する職員像を具体的に描いている。また、就業規則に人事基準やキャリアパスについて明記していることが確認できる。</p> <p>職員の能力開発の一環として、新人職員には中堅が、中堅職員には基幹的職員が職務内トレーニングを行っている。</p> <p>施設長は、職員の専門資格取得を推奨し、職務貢献度に見合った昇給を実施している。施設の人事管理は、施設の基本方針に基づいていることが見てとれ、優れた点である。</p>		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		第三者 評価結果
①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	<input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【コメント】

社会保険労務士事務所と契約し、働き方改革について助言を得ている。施設長は、積極的に職員のメンタルヘルスや労働災害に対応しており、職員の悩みに同僚が理解を示して支えていくことが、働きやすい職場づくりのために有効だと考えている。現在、年2回の職員面談のうち、1回を基幹的職員が対応する仕組みを検討している。家庭人として子どもの休みや誕生日に合わせて有給休暇をとることを推奨するなど、ワーク・ライフ・バランスに配慮し、働きやすい職場づくりに取り組んでいることは特筆すべき点である。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		第三者 評価結果
①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

施設では、“職員の心構え10か条”に「自己研鑽に努める」という期待する職員像を掲げている。職員は、院内研修ごとに“ふり返りノート”に自身が受講した研修内容や感想を記し、学んだことを職員間で共有しており、施設長は、ノートや日誌等を閲覧して助言している。また、面談の折に話題にして職員の思いを把握しながら、目標設定に繋がるよう指導している。施設内の各委員会では、年度末に取組内容や成果、課題をまとめ、プレゼンテーションを行っている。新人研修も兼ねており、若手職員に発表の機会を作るなどの工夫していることが見て、高く評価できる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

年度当初に研修計画を策定している。コロナ禍以降オンライン研修が増えて、施設内で研修を受ける機会が多くなっている。“ふり返しノート”の記入は、職員自身の学びの整理と共に研修内容の評価にも繋がるものである。また、個人で研修計画を立てることでキャリアパスの見通しが得られるような記載内容となっている。施設における職員の研修等の計画は確認でき、計画に基づいて適切に実行するとともに、今後の振り返りに活かし職員の更なる支援の向上に繋がることに期待したい。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

新任職員には就業前から研修を行っており、施設の歴史や理念、現状の理解、子どもの権利擁護等について学ぶカリキュラムがある。職員が講師となることで、現職職員の学びともなっている。施設内研修では、弁護士、臨床心理士、発達支援専門家、医師等を講師として招聘している。また、専門家によるスーパービジョンの体制が確立しており、施設の組織力の向上に繋がっている。職員が学ぶ機会を保障し、多職種の講師を招聘し研修を行っていることは特長である。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		第三者 評価結果
①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	○
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

コロナ禍以前は、保育科のある福岡・長崎 短大・大学などから実習の問い合わせが多くあった。実習依頼は施設長が受けて実習担当職員に伝え、担当職員と大学担当者がカリキュラムに応じたプログラムについて打ち合わせ、実習生の学びたい内容となるよう支援している。

コロナ禍では、事前打ち合わせや実習に入る前にオリエンテーションを行い、実習前には学生に体温チェック、抗原検査を義務付けている。実習中には尋ねやすい雰囲気をつくるように食堂を開放する他、施設内には実習準備室や宿直部屋も備えている。

実習生が事前に「発達障害について学びたい」等の課題を決めている場合は、課題に適応するユニットを準備しており、更に実習生対応マニュアル・オリエンテーション資料を準備していることも確認できる。

実習生の養育・支援について適切に学びの機会を提供していることは優れた点である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

施設の情報は、ホームページにて得ることができる。最近ホームページを新たに作成しており、施設長はホームページを活用し、家族に向けての広報はもとより地域へ向けての情報発信にも役立てたいと考えている。

また、可能な家族にはLINEを使って情報を発信している。ホームページには苦情解決公表は報告しており、今後、第三者評価結果を掲載するよう準備していることが確認できる。

更にワムネットに財務諸表等を掲載し、運営の透明性を確保しており、高く評価できる。

②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	□施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	□施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	□施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	□外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

経営面では会計事務所、労務管理については社会保険労務士事務所と契約しており適時サポートを受け、改善すべき点は改善している。
 職員の働き方改革に向けて厚生労働省が薦めている「産後パパ育休（出生時育児休業）」も積極的に取り入れており、オンライン研修は積極的に職員に案内している。
 外部監査も適切に受けており、公正かつ透明性の高い施設の経営・運営に努めている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
	□地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	□子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	□施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	○
	□子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
	(児童養護施設) □学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	○

【コメント】

コロナ禍の中、保健所職員4人が施設内の行事に参加しており、保育サポートを通して子どもとの関わりを持っている。
 地域住民は施設の子どもたちを受け入れており、地域行事や川の清掃、ホテル観賞会、マラソン大会等、子どもと地域との交流の機会がある。職員は地域住民に施設への理解を深めてもらうために、子どもに付き添い一緒に参加している。
 子どもの活動範囲を広げるための取組みとして、今年度の目標に子どもたちが五島の自然に触れること、関心を持つことを掲げており、地域との交流を大切に考え取り組む姿勢は高く評価できる。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
	□ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	□地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	○
	□ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	□ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○

【コメント】

コロナ禍以前は大学生による短期間の学習支援を受けていた。施設は、ボランティアの受入れマニュアルを整備しており、子どもたちの写真撮影禁止、SNS等への掲載厳禁等のルールを明記している。ボランティア担当職員は、企業等からのボランティア受入れ依頼も含めて対応しており、依頼が多数あることは子どもたちの社会性を育むのに役立っていると考えている。現在も申し込みがあれば受け入れ可能な体制を整備している。

(2) 関係機関との連携が確保されている。		第三者 評価結果
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○

【コメント】

施設にとって必要な行政、学校、警察、図書館、公民館等の地域の関連機関・団体をリスト化している。
 また、要保護児童対策地域協議会に家庭支援専門相談員が出席し情報を共有している他、子どもの居場所づくり事業代表者会議には施設長が出席している。
 会議には行政・学校・警察等が出席しており、新しい情報を得るようにアンテナを立て、関係機関と連携を図っている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		第三者 評価結果
①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	○

【コメント】

奥浦夢の町協議会の会議に施設長が出席し、地域の問題を把握している。また、限界集落の町づくりにも参加していく予定があり、地域住民や関係機関との交流活動を通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。
 施設では、中学校の剣道の授業や3歳児5歳児検診に職員を派遣し、地域の子どもの様子を把握している。施設は地域に根付いており、これまでの地域交流や関係機関との関わりから、地域の福祉ニーズ・生活課題などの積極的に把握している。地域にとっての福祉拠点となりうる施設の存在は、特長である。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設では、教会のイルミネーションやオリーブ植樹について奥浦夢の町協議会の協力を受け、毎年飾り付けや手入れを行っており、まちづくりに貢献している。

また、五島市でも近年問題となっている海洋汚染について、ブルーカーボンを増やし海の豊かさを取り戻すとともに、温暖化対策にも繋がる取組への献金を呼びかけており、自然環境問題に関心をもつ子どもを育成することに力を注いでいる。更に、施設の子どもたちのアンケートを基に、地域にひまわりやコスモスなどの植樹を行い、手入れも子どもたちが担い、地域に貢献していることが確認できる。

本施設は、これまでも地域のまちづくり協議会への参加や学校へ職員の派遣など、五島市との連携を重要と考えており、地域の福祉ニーズ等に基づいた活動を行っている。現在も施設長がリーダーとなり、ボランティア有志も参加し、公民館でこども食堂を開き地域の福祉ニーズに応えている。

また、五島市こどもの居場所づくり・生活困窮等支援事業に参画し、生計困難者支援の一環として複数の家庭に「子育てが孤独にならないように」と、月に2度、家庭支援専門相談員がこども食堂の配食サービスを持参して家庭訪問を行っている。また、市社会福祉協議会としたレスキュー事業にも参画し、高齢者が生活が維持できるよう支援しており、心を込めた公益的活動は特筆すべき点である。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

“職員の心得”において、子どもの自己肯定感を育むことを明文化している。また、職員は、倫理綱領などを理解し子どもを尊重した養育・支援に取り組んでいる。

毎年度、権利擁護チェック表、人権チェック表にて自己を振り返り、評価分析を行っている。今年は子どもたちにも自己肯定感のアンケートを実施したり、児童会では権利についてクイズ形式で学ぶ場を設ける等、子どものQOLの向上を目指した取組を行っている。

子どもの尊重について、施設内で共通理解を持つための取組は確認できるものの、標準的な実施方法との関連付けはこれからである。今後の取組が望まれる。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

権利擁護チェック表及び人権擁護チェック表には、子どものプライバシー保護に関する質問事項があり、職員が振り返る機会となっている。また、プライバシー保護マニュアルがあり、職員はマニュアルに基づいた対応を行っている。

子どもたちの居室は個室又は2人部屋であり、年齢に応じてプライバシーに配慮した居室環境を提供している。居室に入るときは必ずノックし、男性職員が女子の居室対応を行う場合は、必ずドアを開けた状態で対応するルールとなっている。

入浴やトイレ、リビングでの過ごし方など共同生活のルールを設け、子どものプライバシーに配慮した支援に取り組んでいる。

子どもの人権擁護や羞恥心への配慮等に関わるプライバシー保護についての取組は高く評価できる。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

第三者
評価結果

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

児童相談所にて施設のパフレットをもとに、説明を行っている。リニューアルしたホームページは活動の様子を多く掲載しており、施設での生活の様子がわかりやすく理解できるよう工夫がある。

児童相談所での施設説明では保護者も一緒の場合があり、見学には児童相談所職員と訪れている。コロナ禍であるため、事前のオンライン面談も行っている。また、施設では入所予定の子どもの年齢に応じて、説明内容を工夫している。

パンフレットは写真の入れ替えを行っているものの、内容の見直しは昨今行っていない。内容の検討、見直しに期待したい。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設が行う養育・支援について、自立支援計画を作成し、子ども及び保護者の同意を得ている。自立支援計画は年2回作成しており、長期目標・短期目標を明示し、子どもが見通しを持った暮らしができるよう支援している。支援計画の見直し時期には、子どもの意見や思いを汲み取るとともに、連絡が可能な保護者には意見を聞き取り、計画に反映している。入所に至るプロセスが多様であり、低年齢で意思決定が難しいなど、意思決定が困難な子どもや保護者には個別に配慮し対応している。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

家庭や他施設への移行は、児童相談所など関連機関を交えた話し合いのもと、子どもと保護者の意向を踏まえて行っている。他施設へ移行にあたり、施設での情報は引継ぎ文書を作成している。卒院準備段階から、卒院後も施設職員へ相談ができることを説明しており、現在、アフターケアの一環としてSNSを活用した窓口を開設している。退所後に連絡可能な子どもには施設内行事を案内したり、専任の自立支援担当職員と連絡を密にする体制を取り、退所後であっても生活相談の他、トラブル解決に向けて支援を行っており、特筆すべき点である。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設では、子どもの満足の向上と積極性、自立性の育成を目的として、児童会を開催しており、進行は子どもが役廻りで行っている。事前に児童会の内容を準備して積極的に取り組んでおり、アンケートも実施している。年1回のアンケートや嗜好アンケートでは得た情報を集計分析し、検討してホームでの暮らしなどに役立てている。また、日常会話から子どもの満足度を知ることがあり、職員間で共有し支援に繋げている。更に、児童相談所のフォローアップもあり、さまざまな仕組みがあることが確認できる。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。</p> <p><input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。</p> <p><input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設は、社会福祉法人法の規定により、子どもからの苦情などに適切に対応することを責務と理解し、苦情相談窓口を設置している。施設長が苦情解決責任者であり、第三者委員を任命している。苦情解決の仕組みや意見箱の活用方法について、児童会などで子どもに説明している。</p> <p>意見箱に入った子どもの自筆のメモは、秘密事項として保管しているが、近年投函はない。</p> <p>当日のヒヤリング事例から、苦情相談窓口及びその体制は子どもたちに周知を図っていることが確認できる。苦情解決の仕組みを確立していることは優れた点である。</p>	
<p>② 35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>施設では権利ノートを用いて、子どもはホーム担当職員に限らず、自らが話しやすい職員に意見や相談できることを説明している。児童会では、子どもたち中心に意見を出し合っており、議事録も確認できる。</p> <p>子どもは自身のホームや居室等、職員と話しやすいスペースを選ぶことができ、他の人に気兼ねなく話すことができるよう配慮している。</p> <p>今年は卒院生を招き、児童会にて卒院後の話を聞く機会を設けており、卒院間近な子どもは自身と照らし合わせることができ、思いや相談を述べるよい機会となっている。</p> <p>子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、その機会を多く設けていることは高く評価できる。</p>	

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

職員は子どもが相談したい時に、声が掛けやすくなるよう信頼関係の構築に努めている。相談や意見を聴取した時には、ホーム内で解決できることはホームで対応し、それ以外はリーダー会議、職員会議で職員間で共有するとともに主任、施設長も一緒に検討し、迅速に対応している。
施設には意見箱を設置しており、投函された意見は内容確認後に対応について検討することとしているが、近年投函はなく、直接職員に話す子どもが多く、信頼関係が構築できていることがわかる。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

リスクマネジメント全般に関する責任者は施設長である。
委員会を中心にしてヒヤリハット事例を時間帯、職員勤務、場所など具体的に分析し、“家庭的養護推進計画”に記載している。
ただし、ヒヤリハットと事故の区分が曖昧な点があるため、今年度見直しを実施中である。事後発生時の手順、フローチャートがあり、安全確保についての研修を行っていることが確認できる。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

非常勤看護師を配置している。コロナ対応マニュアルを基本として、感染症予防の対策を行っている。ホーム毎の消毒、換気、体温測定、密を回避する方策を講じていることが確認できる。また、PCR検査キットや保護者への連絡などの対策、職員の待機室も整備しており、子どもたちにも周知徹底し、感染者が出た場合はクラスターにならないように素早く対応することを指導している。看護師は、嘔吐対応セットを設置する他、アルコール消毒液も作り常備して感染症予防に努めている。更に、感染者が出た場合は、通常とは別の出入口を設けた隔離室や看護師の控室を使用し、感染拡大を防いでおり、感染症に関する対策を適切に講じていることは、特筆すべき点である。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的にしている。	b
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

自然災害を想定した具体的な避難計画を策定している。施設では、地域のハザードマップを確認するとともに、月1回避難訓練を行っている。常時同じ職員が勤務しているとは限らないため、訓練のたびに手順を確認している。急な変化や大きな音が苦手な子どもには事前に訓練を予告し、心理的な動揺を最小限に留める配慮を行っている他、低年齢の子どもには、実際の避難場所などわかりやすく教えている。各ホームでは持ち出しセット、備蓄品の賞味期限の確認を行っている。職員不在の時はホームの年長児が持ち出し等の任務を受け持つようルールを決めている。子どもにもわかるよう災害時の文言について用語集を付加したマニュアルは、避難誘導の係や注意事項などまとめており、現状に合わせて改訂していることが確認できる。今後は、事業継続計画であるBCP計画の策定が望まれる。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>施設では、養育・支援実施に関わるマニュアルを策定しており、共通対応マニュアルファイルとして職員室に設置している。施設内にマニュアル・安全委員会を設立し、マニュアルの周知や見直しを主として活動しており、月に1回委員会メンバーが集まり検討している。</p> <p>また、プライバシー保護規程は、権利擁護委員会を中心として研修を企画し実施しており、施設内の各種マニュアルの活用、見直しの仕組みが確認できる。職員の養育・支援の基本となるマニュアルについて委員会を立ち上げ取り組んでいることは高く評価できる。</p>		
②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>マニュアルの見直しは、ホームミーティングでの検討や委員会からの提案をもとに随時行っている。児童会の議題として日常生活に関わる課題を挙げており、子どもからの意見が見直しに繋がる事例もある。</p> <p>月1回委員会活動の時間を設定し、年度末に1年間のまとめを全体の職員会議で発表しており、マニュアルを見直す仕組みができていることは特長である。</p>		
(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。		第三者 評価結果
①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>
【コメント】		
<p>ホーム担当職員が主となって自立支援計画を作成している。本人と日常生活の様子を振り返りながら目標の進捗状況を確認し、子どもの思いやニーズをもとに計画を立てている。</p> <p>ホームミーティングで話題になったことや自立支援専門員の参画により、多角的な観察や客観的な意見を反映したより良い支援計画となるよう努めている。保護者と面談が可能な場合は、三者面談を行っている。</p> <p>進路に関わる時には、保護者の意向を聞き取り把握して、検討している。</p> <p>子どもの養育・支援の基本となる自立支援計画の作成の仕組みは優れた点である。</p>		

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

子どもが会話ができる年齢となると、職員と一緒に話し合って目標を定めている。支援計画作成後、職員が気掛けて声掛けすることで目標達成を目指している。また、支援計画と日々の記録を一緒にファイリングすることで、常に状況を確認できる仕組みを整えている。記録は施設長が確認し、評価コメントを記入している。
 子どもの意向とともにホームミーティングや自立支援専門員の意見をもとに、短期目標と長期目標の修正を行っている。目標修正時には職員会議で内容を伝え、全職員への周知を図っている。自立支援計画の評価・見直しの仕組みが稼働していることは、高く評価できる。

(3)	養育・支援の実施の記録が適切に行われている。	第三者 評価結果
①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設が定めた様式に基づいて適切に記録と管理を行っている。日々の記録と自立支援計画、アセスメントシートを整理し、所定の場所に保管している。
 必要に応じて自立支援員、ホーム内の職員間で情報を共有しており、適切な養育へと繋がっている。職員室内にホワイトボードを設置し、子どもに関わる全ての書類等の情報を掲示しており、情報収集、記録、管理、運用が適切に行われていることが見てとれる。
 週案・月案等はパソコンで入力しているが、支援計画との共有化は現在検討中である。今後の取組みに期待したい。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

ホーム内の職員室に“共通対応マニュアル”を設置し、常時閲覧可能な状態となっている。マニュアルには“個人情報保護規程”があり、記録管理者や不適正な個人情報漏洩に対する対応方法等の規程が確認できる。フェイスシートや記録類はそれぞれに所定の場所に保管し、職員不在時は鍵をかける方策を取っており、子どもたちには立ち入らないように指導している。

情報漏洩防止や情報保管等の記録の管理体制については、年度始めに職員会議で確認している。情報開示の請求時には、施設長が児童相談所に相談の上、対応している。施設での子どもに関する記録の管理は適切に管理されていることが見てとれる。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

施設内に権利擁護委員会を設置しており、マニュアルを整備してスタッフ会議の際に周知を図っている。マニュアルには声掛けや複数の職員での子どもの相談対応など細かく定めている。

職員は夜間の見守りに努め、気になる子どもは職員の目が届く部屋に配置している。施設では命に係わる重大事故は起きていないものの、命に係わることや自傷行為等には、本人が落ち着くのを待って「あなたのことは大事だから」と時間をかけて自己肯定感の大切さを伝えている。

子どもの権利擁護について新任研修会やミーティングで職員に伝えていることが議事録で確認できる。

年齢別に理解できるように子ども権利ノートを全員に配付しているなど、子どもの権利擁護に関する姿勢、取組みは高く評価できる。

(2) 権利について理解を促す取組		第三者 評価結果
①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○
【コメント】		
<p>職員は、子どもに自己肯定感を持つことから支援し、更に友達にも権利があることが理解できるよう伝えている。友だちを傷つけた時には自分から謝りたいと思う子どもになることを目指し、小さな争いの際にはどうしたらいいかを考えるよう促し、相手の気持ちに思いを馳せる子どもに育つよう育んでいる。</p> <p>職員だけでなく、年長者の子どもが窘めることもあり、施設長は、ホームで抱え込まずに相談できる体制をつくり、子どもも職員も皆が他者を思いやれる人間形成を目指している。</p>		

(3) 生き立ちを振り返る取組		第三者 評価結果
①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生き立ちを振り返る取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	○
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生き立ちの整理に繋がっている。	○
【コメント】		
<p>施設では、子ども一人ひとりのアルバムを作成している。各ホーム職員が担当であるが業務に忙殺される中で、子どもの生き立ちからの記録を収集できないのが現状である。</p> <p>現在は、まずは子どもの状態を把握するために児童相談所や施設内心理担当職員等と連携することから始めている。施設では、ライフワークストーリー作成のための院内研修やケース会議での検討等、まだ不十分であると考えている。今後の取組みに期待したい。</p>		

(4) 被措置児童等虐待の防止等	第三者 評価結果
<p>① A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがつけられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

施設内の人権擁護委員会は人権擁護チェックリストを作成し、職員が自身の言動や行動を自己点検することで、意図せずとも不適切行為を行っていないか振り返る機会を設けており、子どもの人権侵害の恐れを厳しくチェックしている。更に、子どもたちへのアンケートも実施している。

施設には意見箱を設置しており、以前は意見箱に投函された意見一つ一つを受けて、職員がどう対応したかを記録していたが、現在は、職員に直接伝えており、投書はなくなっている。

子どもに対する虐待が疑われる場合の対応について、フローチャートを作成していることが確認でき、不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいることは、優れた点である。

(5) 支援の継続性とアフターケア	
<p>① A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるように配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

【コメント】

本人が安心して入所できるように、入所の日には玄関に氏名を掲示して温かく迎え入れている。入所時に準備する物をチェックリストにまとめて、本人・家族に渡している。持ち込む物については施設内で事前チェックを行い、刃物等は持ち込まないよう気を付けている。

年2回、本人の希望する衣服を購入するために職員と一緒に掛かけたり、インターネットで購入している他、下着類は必要に応じて購入伺いを出して購入している。

緊急措置で入所した子どもには施設で常備している下着を貸し出して対応している。家庭復帰や施設変更については、子どもの希望に沿って、LINEなどの連絡手段を教えている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	○

【コメント】

退所前にはリービングケアにて自立への手助けを行い、洗濯、料理実習などのサポート訓練を行っている。退所後に連絡可能な子どもには院内行事を案内している他、誕生日や子どもの日、クリスマスにはプレゼントを贈っている。

施設では、専任の自立支援担当職員と連絡を密にする体制を取り、退所後であっても生活相談、トラブルなどで支援が必要な時には相談を受けている。施設は赤い羽根福祉基金「盛和塾 リスタート応援助成」における助成先施設に選定されているが、これを利用した事例はまだない。

自立生活に必要な支援金・給付金についての情報も適宜提供している他、NPOに相談して職業支援に繋げる等、退所後の不安に寄り添って支援していることは特長である。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	○

【コメント】

子どもが表出する感情や言動について、職員はとりあえず落ち着くまで距離を取り、落ち着いた頃に表出した感情や言動について振り返り、どうすればよかったかを考えるよう話している。言葉に表すことができない子どもについては、普段からの関わりが大切であるため、いつも気にしていることがわかるように関わり、何かあった時に言えるような関係性を作るよう努めている。

月2回のケース研究会議では、きめ細かに子どもの状況を確認している。行動上の問題があった場合は、現象ではなく、その背景を考えて非言語の情報も含めてホーム会議で検討している。

ホームで解決できない時に、棟で子どもたちにアンケートを実施して他の職員が面談し、解決に繋がったケースもある。

子どもが表出する感情や言動を受け止め、根底にあるものを理解し丁寧に支援する職員の姿勢は優れた点であるといえる。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

ホームでの日常生活のルールは、子どもと職員が一緒に見直しており、最近ではスマートフォンのルールを改定している。
 子どもの意思を尊重した柔軟さがあり、毎週日曜日には掃除の時間があったり、テレビ鑑賞やゲームの時間なども各ホームの約束ごととして決めていることがわかる。
 食事に関するアンケートでは、栄養士と子どもたちが話し合う機会を持ち、食事に満足できるよう配慮している。
 各ホームでは、夜に目覚めた時に大人の気配を感じて安心できるよう、小学生低学年までは寝付くまで職員が傍にいる他、職員室の電気を点けて明るくするなど工夫していることがわかる。
 子どもの意思を尊重し、日常生活のルールを一緒に考え見守る職員の日々の支援は高く評価できる。

③	A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設では、子どもが司会進行する児童会があり、幼児以外は参加している。児童会では、子どもが主体的に話していることが議事録から確認できる。また、ホーム職員は、子どもが主体的な生活を営むことができるよう、子どもたちとの日常生活を通して子どもの意思や要求を把握している。月2回行う各ホームの話し合いでは、子どもたちの合議のもとルールを決定しており、職員はそのプロセスを見守り助言している。テレビやゲームの時間等、ホームのルールを決めていることがわかる。
 子どもが失敗したり、つまづいた時には、職員は見守りながら助言しており、自身で解決できるよう支援しており、施設の特長といえる。

④	A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

施設では、それぞれの子どもの年齢や発達に応じた養育・支援について計画を作成し、実施している。計画には本人とともに考えた課題も記しており、克服に向けて職員がサポートしている。現在、幼稚園に通っている子どもが在籍しており、職員が送迎に付き添っている。

年齢に応じて必要な書籍や遊具を設置しており、子どもは居室やリビング、地域交流室などを学びや遊びの場としている。

子どもの遊びや学びを保障するための方策として、外部学習指導者や保健所職員、未来子ども財団のオンラインによる交流などがある。

⑤	A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが社会生活をいとなむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達の状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

各ホームの生活ルールは、子どもたちが主体的に内容を考え、職員がサポートしながら作成している。全ての情報を遮断するのではなく、ゲームや携帯電話など現在の社会生活を営む上で必要な知識などは日常的に伝えている。

パソコン道場やSNSのリテラシーなどネット使用について外部講師を招いた講座など、成長に応じて支援している。中学校、高校と進級した時には通学や部活、携帯所有など子どもが社会生活を営む上での決まりごとを、その都度職員と話し合いながら考えている。また、外部講師を通して子どもたちに伝えてほしいことを打ち合わせている。

子どもの成長に合わせて社会規範や一般常識などを知る機会を多く設けていることは特長である。

(2) 食生活		第三者 評価結果
①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
	<input type="checkbox"/> 楽しい雰囲気ですることができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもが精神的に健康に育つためには生活リズムを整えること重要であり、その一つとして「朝食を取る」ことを重視している。職員から促されて食べるのではなく、自ら「朝ご飯を食べたい」と思わせる献立や提供方法の工夫事例が確認できる。

朝ご飯を食べるためには、必ず決まった時間に起床することであり、子ども自身が主体的に生活習慣の改善に取り組むことに繋がっている。

施設は朝食を通して、子どもの生活リズムと意欲を育てており、子どもが社会人として巣立つ時の要となると考えられる。食を楽しみながら身体的かつ精神面の健康を育む取組みは高く評価できる。

(3) 衣生活		第三者 評価結果
①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもは入所時に自身の衣類を持参している。職員は、本人の成長に応じて体形に合う好みの洋服を着用するよう支援している。

施設では、年2回衣服を購入する日があり、各ホーム毎に買い物に出掛けている。流行の洋服を選んだり、最近ではインターネット通販を利用する子どももいる。子ども同士で洋服を交換したり、お洒落を楽しんでいる様子が窺える。修学旅行や急激に成長しサイズが合わなくなった場合など、状況に応じて適切な衣類を購入している。洗濯は子どもたちが行い、修繕などできない部分を職員が支援している。

成長に伴い、衣服にもこだわりが出てくる子どもに合わせ、自己表現の機会とも捉えて支援していることは、優れた点である。

(4) 住生活		第三者 評価結果
①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	□子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	○
	□小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	○
	□中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	○
	□身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	○
	□食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	○
	□設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	○
	□発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	○

【コメント】

現在は子どもの人数から、中学生と高校生は一人部屋、小学生以下の子どもは育ちに応じて2人部屋で過ごしている。2人部屋の場合は、室内でプライベート空間を確保している。

各ホーム約束事の中で、居室の整理整頓についてわかりやすく記している。居室の片付けは自身で行っており、職員がサポートに入ることもある。洋服などを床におかない、自分の物をリビングに放っておかない等、なぜダメなのか理由も併せて伝え、整理整頓できるよう指導している。

日曜日の夕方は、子どもたちとリビングを片付ける時間としている。施設はきれいに清掃が行き届いており、安心安全な空間であることがわかる。

居心地のいい環境となるために、自身で整理整頓し清掃することの日々の指導は、将来の生活に役立つ習慣に繋がると考えられ、高く評価できる。

(5) 健康と安全		第三者 評価結果
①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b
	□子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	○
	□健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	○
	□受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	□職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	○

【コメント】

毎日体温チェックを行い、職員は子どもたちの様子を確認しながら、健康状態や発育・発達の状態を把握している。施設では年1回健康診断を行っている。また学校の健康診断結果も合わせて管理している。再検査や治療が必要な場合、適切な医療機関へ受診している。

視力低下によってコンタクトレンズを購入する場合は、保護者に確認を取って購入している。嘱託医を講師に招き、健康に関する研修を行い、職員が知識を深める機会を設けている。

(6) 性に関する教育		第三者 評価結果
①	A16 子どもの年齢・発達状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	○
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	○
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	○

【コメント】

施設では、産婦人科の医師を外部講師に招き、性教育を行っている。性についてタブー視せず、正しい情報を子どもたちに話している。年齢相応で健全な交際については否定せず、職員は子どもと信頼関係を築いており、異性との交際など状況把握に努めている。マニュアルは子ども向けのものであり、その子の背景も踏まえながら、どの段階までを話すかは、職員間で検討している。子どもからの性に関連する質問や行為などは、その都度職員は情報共有し、職員間で返答内容を統一し、子どもが混乱しないよう対応している。

専門家の講義が子どもたちの理解を深めることができるため、嘱託医がDVDや絵本などの資料を施設に提供し、児童会で鑑賞している。資料は年齢に応じた内容となっている。

子どもの成長を考慮しつつ、性教育を行っていることは高く評価できる。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応		第三者 評価結果
①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもを安全を図る配慮がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	○
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	○

【コメント】

問題行動が生じた場合、職員は複数で対応するルールがある。子どもの訴えを傾聴し、子どもを尊重して思いを受け入れる姿勢を保持している。

“危機対応マニュアル” “ケース記録の書き方マニュアル” を作成し、段階ごとに留意点や対応の仕方を記載しており、いつでも確認できるように職員室に常備している。職員は一人で抱え込まず、ホームミーティングやケース会議、職員会議で対応策を検討している。

必要に応じてこども医療センターの発達外来へ繋いだ事例があり、子どもの暴力、不適応行動などの問題について、マニュアルを整備するとともに取り組む仕組みを構築していることは特長である。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

アセスメント等を参考にして生活するホームを決めている。幼児から成人する子どもたちが集団生活を営む上で、子どもたちの不利益が生じないように職員間で連絡を怠らず、常に配慮している。
 暴力を受けた場合は、施設長、リーダーが対応している。施設にはパニックルームは設置していないため、外の空気を吸って気分転換するよう促している。これまでに警察が介入した事例もあり、警察官の言葉が本人に響くこともある。
 いじめにあった子どもが職員に吐露したことが本人の不利益に繋がらないように配慮して対応している。
 施設では、ホームごとに職員を複数配置し、2つのホームの続き部屋を職員室としており、問題等が行った場合には介入できるように工夫している。施設では、職員向けに弁護士や産婦人科医による院内研修を行っている。
 施設内での子ども間のいじめ等に適切に対応する仕組みがあることは特筆すべき点である。

(8) 心理的ケア		第三者 評価結果
①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

施設は、心理に関する外部講師を確保しており、常勤の臨床心理士はコロナ禍でZOOM会議を活用して連携を取っている。心理士は処遇補助を兼務しており、普段の生活の様子からも子どもの状態を把握することができている。療法室はプライバシーが確保され、リラックスできる空間となっており、子ども一人ひとりの状態に応じて心理療法を行う“心の時間”を設定している。“心の時間”は子どもとの信頼関係を大切にしており、子どもの状況に左右されることなく本質を見極めながら療法を行っている。一人ひとりの子どもを讃え、ここでの育ちから未来を見て欲しいと伝えている。
 心理士は、院内研修やケース会議、支援計画作成時にアドバイスをを行っているものの、本人がスーパービジョンを受ける機会がない。専門職としてのスキルを高め養育・支援の質の向上へと繋げていくためにもスーパービジョン体制の整備が待たれる。

(9) 学習・進学支援、進路支援等	第三者 評価結果
<p>① A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。</p> <p><input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>落ち着いた環境で学習することができるよう、ホームでは本人の意向に沿って刺激が少ない部屋を準備したり、夏休みに学習時間帯を決めたりしている。外部講師が週2回学習指導を行っている他、施設内でオンラインを利用して授業を受けることができる設備を整えている。</p> <p>学校と常に連絡を取り合い、忘れ物や宿題未提出の子どもにはチェック表を作成して、意識付けを図るなどの取組をしている。</p> <p>高校教員が来訪し、大学進学希望者の学習支援を行うなど、地域住民や学校関係者による手厚い支援が行われていることは、施設の特長といえる。</p>	
<p>② A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。</p> <p><input type="checkbox"/> 学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>自立支援担当職員を中心に進路選択に必要な情報・資料を積極的に収集し、子どもに提供している。施設では、進路選択にあたって子どもの家庭状況に応じて、可能な限り話し合いの場を持つよう努めている。さまざまな奨学金制度や「社会人1年生スタート応援事業」、「赤い羽根リスタート応援事業」等を紹介し、子ども一人ひとりの最善の利益に叶うサポート体制を整えている。</p> <p>学校を中退となる場合、事前に子どもと話し合いを重ね、適切なNPOや職業支援に繋げている。不登校になった子どもが通信制の学校を受講した例もある。個別の状況によって対応が異なるため、児童相談所と検討を行っている。</p> <p>島外に出る子どもたちのフォローアップとして、児童相談所やNPO法人と連携して支援を継続している。子どもが自己決定のもと、最善の利益にかなった進学ができるようサポート体制を整え、支援していることは優れた点である。</p>	

③	A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。	○
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

島内には職場体験ができる資源が少ないため、学校で授業の一環として職場体験を行っている。
 アルバイトは学校で禁止されているため、子どもたちが仕事を通して社会の仕組みやルールを学ぶ機会は限られている。
 施設では、オンラインを通してパソコンのプログラミングを学ぶ機会を設けており、将来的にはオンライン学習で資格を取得することも検討している。
 また、2年間働くことで返済が不要になる運転免許取得のための貸付制度を利用するなど、子どもが社会の仕組みやルールを実感する機会の拡大に取り組んでいる。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

第三者
評価結果

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

児童相談所と連携しながら、家族と連絡を取り合っている。保護者の拒否があっても、保険証の更新など行政への手続きや学校行事等の話題から関係を継続している。LINEを活用して生活の様子を動画で配信し、喜んでもらったことがある。数年経て関係を築くことができた事例もある。

盆や正月の一時帰宅時には、本人の意向等による誓約書を取っている。帰宅後は情緒不安定になることがあるため、職員は見守りながらケアを行っている。父母の日、2分の1成人式、卒業式の呼びかけ等では、学校側での手厚い配慮が行われている。

(11) 親子関係の再構築支援	第三者 評価結果
<p>① A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【コメント】</p> <p>家庭支援員を中心に、親子関係再構築のための取組みを全職員の共有理解のもとに行っている。 “五島市子どもの居場所づくり事業”等、行政・NPO法人とも積極的に連携している。帰宅困難な子どもには、職員の自宅や島内ホテルでの宿泊体験、キャンプ等のイベントを実施している。 ホーム内ミーティングで検討し、家庭支援員が月2回の職員会議で状況報告を行い、親子関係再構築に向けて取り組んでいることが確認できる。</p>	